

# ◆ 令和7年度事業報告書 ◆

## ◇◆ 目次 ◆◇

### 目的・方針

#### 事業目的

- |              |   |
|--------------|---|
| 1. 円滑な運営に向けて | 1 |
| 2. 職員の資質向上   | 2 |
| 3. 利用者に関して   | 3 |
| 4. 保健・衛生管理   | 4 |
| 5. 非常災害対策    | 5 |
| 6. 事故防止      | 6 |
| 7. 苦情解決      | 6 |
| 8. 行事について    | 7 |

社会福祉法人 はばたきの里

軽費老人ホームA型 いこいの園

〒733-0815 広島市西区己斐上五丁目 930-1

TEL (082)271-4029

FAX (082)271-4546

軽費老人ホームA型 いこいの園

目的・方針

利用者の意思を尊重し、利用者の身体的・精神的レベルに合った日常生活上必要な便宜を供与し、孤立感の解消及び心身機能の維持を図り、健康で明るい生活を送れるようにすることを目的とする。

1. 円滑な運営に向けて

- ・チラシを活用した広報活動として、即効性のある短期戦略ではポスティング約1,400部と新聞折込み約31,000部を実施し、継続性のある長期戦略として関係機関69か所へFAX送信を行った。その中でも新聞折込みの反響が大きく、施設の認知度向上に寄与した。
- ・自立者を対象とする入所施設として一定の入所基準を設定している中で、軽度の見守りを要する利用者についても個々の状態を評価した上で受け入れるなど、入所基準の運用を一部緩和した。その結果、年間目標である在籍者月初平均92%を達成し、増収につながった。
- ・地域包括ケアシステムの構築に向けて、地域の関係機関との連携強化に向けた情報共有や協議の場の整備について取り組みを開始した。

【折込みチラシ】



- ・入所相談件数 124件 (前年比 +1件)
- ・見学および面談件数 28件 (前年比 -11件)
- ・新規入所申込受付件数 8件 (前年比 -5件)
- 主な紹介元…元入所者の家族、病院、施設紹介事業者他
- ・待機者 8名 (令和8年3月末時点)
- ・退所事由、転居先
  - 原爆養護ホーム、長期入院 各2名
  - グループホーム、ショートステイ (当法人) 各1名
  - 逝去 1名

【利用者入退所状況・在籍者数(月初)】 退所者数は( )で表示 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
女性	1	0	1	(1)	(1)	1	1	(2)	1(1)	0	1(1)	1(1)	7(7)
合計	1	0	1	(1)	(1)	1	1	(2)	2(1)	0	1(1)	1(1)	8(7)
在籍者数 (月初)	45	46	47	47	46	45	47	47	45	46	46	46	553

## 2. 職員の資質向上

- ・ 各種会議や内部研修の定期開催を通じ、情報共有の促進と業務の進捗確認、職員間のコミュニケーションの活性化を図り、組織全体のレベルアップと知識の定着、職員のスキル向上や連携強化、組織の生産性向上と成長に努めた。
- ・ 新規採用職員に対し、資質や能力に応じた適切な教育や指導を行い、スムーズな知識・技能の習得を支援。職場への定着促進と早期離職の防止につながった。

退職…介護職員 1 名、調理職員 1 名      採用…介護職員 1 名、栄養士 1 名

### 【会議、内部研修】

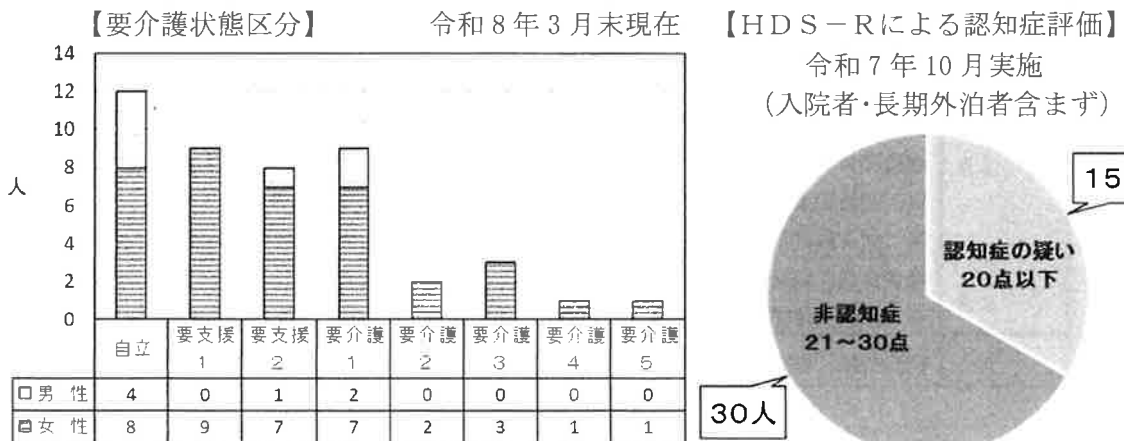
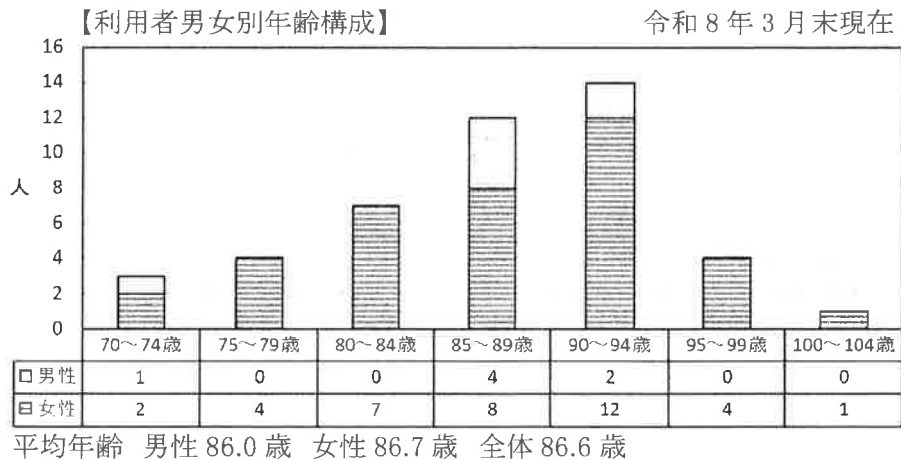
4 月	軽費会議、職員会議、高齢者虐待防止対策会議、身体拘束廃止会議、褥瘡予防対策会議、ケース会議、給食（三施設合同）会議、全体会議 第一回事故防止対策内部研修「前年度の事故発生状況」
5 月	軽費会議、職員会議、感染症防止対策会議、ケース会議、全体会議 災害 B C P 研修
6 月	職員会議、ケース会議 第一回感染症防止対策内部研修「夏に流行する感染症」 災害 B C P 訓練
7 月	軽費会議、職員会議、高齢者虐待防止対策会議、事故防止対策会議、身体拘束廃止会議、褥瘡予防対策会議、ケース会議、全体会議 第一回身体拘束廃止内部研修「身体拘束について」
8 月	軽費会議、感染症防止対策会議、褥瘡予防対策会議、ケース会議、全体会議 新人職員研修（対象職種 介護士）
9 月	軽費会議、職員会議、事故防止対策会議、ケース会議、全体会議 第二回事故防止対策内部研修「事故の種類と定義の確認」
10 月	軽費会議、職員会議、高齢者虐待防止対策会議、身体拘束廃止会議、褥瘡予防対策会議、ケース会議、全体会議 褥瘡予防対策内部研修「褥瘡について」 第一回高齢者虐待防止研修「広島県における高齢者虐待の状況」 第一回介護部門内部研修「感染症発生時の居室対応について」
11 月	軽費会議、職員会議、感染症防止対策会議、ケース会議、全体会議 第二回感染症防止対策内部研修「冬に流行する感染症」 感染症 B C P 訓練
12 月	軽費会議、職員会議、事故防止対策会議、褥瘡予防対策会議、ケース会議、全体会議 ハラスメント研修「職場におけるハラスメントの防止について」 第二回介護部門内部研修「ノロウイルス感染症対策について」
1 月	軽費会議、職員会議、高齢者虐待防止対策会議、身体拘束廃止会議、ケース会議、全体会議 新人職員研修（対象職種 栄養士） 感染症 B C P 研修 第二回高齢者虐待防止内部研修「虐待グレーゾーン…不適切ケアとは？」 第二回身体拘束廃止内部研修「これって身体拘束？よくある事例と NG 行為」
2 月	軽費会議、職員会議、感染症防止対策会議、褥瘡予防対策会議、ケース会議、全体会議 第三回感染症防止対策会議「感染経路と予防法」
3 月	軽費会議、職員会議、事故防止対策会議、ケース会議、全体会議

【職員外部研修参加表】

開催日	研 修 名	実 施 機 関	参加職種
R7. 12. 8	リスクマネジメント研修	広島市老人福祉施設連盟	介護士
R7. 12. 24	マネジメント向上研修	広島市老人福祉施設連盟	介護士

3. 利用者に関して

- ・ 90歳代以上の利用者が前年比35.7%増加し、利用者全体の約4割を占めている。利用者のニーズに合わせて軽度から中等度までのサポート体制を整備し、必要に応じて最適な介護サービスおよび医療サービスの利用機会を確保することで、住み慣れた園生活の継続を支援した。
- ・ 当初予定していた余暇活動の成果物による作品展覧会は、諸事情により計画どおり実施できず未開催となった。代替策として、利用者個人の作品や職員との共同制作物を、季節感を意識して園内の複数箇所に展示し、日常の余暇活動への参加意欲や創作意欲を高める取り組みを行った。その結果、利用者や来園者から作品への関心や好意的な声が多く聞かれたことから、継続的に展示環境の充実に努めている。

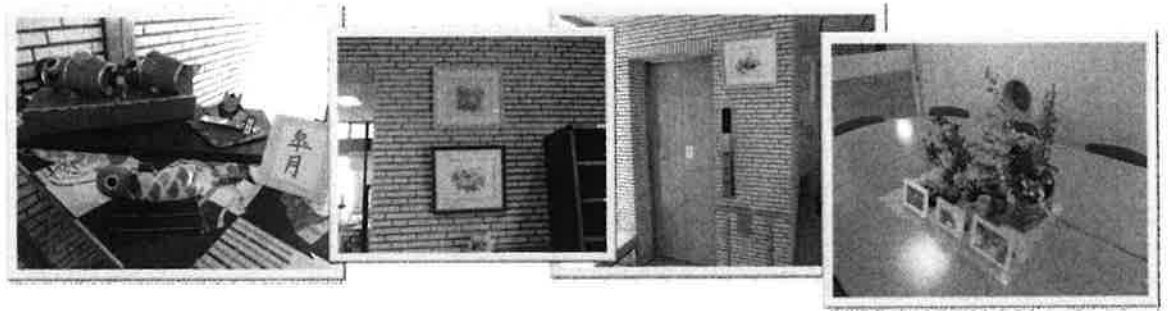


【利用料階層区分】

令和8年3月1日現在 (人)

1階層	2階層	3階層	4階層	5階層	6階層	7階層	8階層	9階層	10階層	11階層	21階層	合計
25	3	3	2	1	5	1	1	2	1	1	1	46

【利用者個人や職員との共同制作による作品展示状況】



4. 保健・衛生管理

- ・ 広島市の感染症発生動向調査における定点当たりの報告数や注意報・警報レベルを指標として、職員および利用者、来園者に対し流行中の感染症に関する正確な情報提供に努めた。また、標準的な感染予防策に加え、流行中の感染症の特性に応じた対策を講じることで、感染症の発生およびまん延の防止を図った。
- ・ 上期には入院される利用者は少なかったものの、下期には入院者数が増加した。骨折による入院に加え、精神症状の増悪により入院加療を要した利用者や、入院には至らないものの精神症状が不安定な利用者が増加傾向にあった。

【利用者入院状況】

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	0	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4
女性	1	0	0	1	1	0	1	1	4	1	2	3	15
計	1	2	1	1	1	0	2	1	4	1	2	3	19

【利用者入院理由一覧】 ※いずれも各1件

<骨折・整形外科的疾患>

右大腿骨頸部不顕性骨折、左足関節外果骨折、右側肋骨骨折、腰椎圧迫骨折、大腿骨骨折、下位腰椎椎体骨折、胸椎第12圧迫骨折、坐骨神経痛、歩行困難

<内科・外科的疾患>

大腸癌手術、直腸粘膜脱形成術、誤嚥性肺炎、鉄欠乏性貧血・心不全、うっ血性心不全・発作性心房細動、低ナトリウム血症、食欲不振・胃痛

<精神科・その他>

うつ病、統合失調症、検査入院

## 5. 非常災害対策

- ・ 消防計画に沿って建築物および消防用設備等の自主点検を定期的実施し、設備の不具合や故障を早期に発見して修繕や交換に努めた。一方、消防職員による立入検査において自動火災報知設備に関する消防法令違反の指摘を受けたため、改修を行い、是正計画書を消防署へ提出した。
- ・ 人命に関わる災害リスクが高い場所であることを念頭に置き、職員全員が迅速かつ適切な判断を下せるよう、明確な共通認識の形成と個々の判断力の向上を目的として訓練および振り返りを実施し、課題の抽出と改善に取り組んだ。

### 【避難訓練】

実施日	訓練内容	対象者	利用者への 事前告知有無
R7. 5. 29 (昼間想定)	土砂災害避難誘導訓練 (垂直・水平避難)	利用者・職員	有
R7. 6. 26 (夜間想定)	消火・通報連絡・避難誘導訓練	利用者・職員	無
	自動火災報知設備について	職員	/
R7. 11. 27 (昼間想定)	消火・通報連絡・避難誘導訓練	利用者・職員	無
R8. 2. 26 (昼間想定)	消火・通報連絡・避難誘導訓練	利用者・職員	有

### 【消防職員による立入検査結果】

検査日	指摘内容	対応・対策
R7. 7. 16	≪法令違反≫ 消防用設備等の点検結果の不備事項 (火災報知装置の予備電池容量不足)	<対応> R7. 9. 9 改修(電池交換) R7. 9. 10 是正計画書提出 <対策> 電池の平均耐用年数を考慮し、定期的に交換する。

### 【大雨警戒レベル3(高齢者等避難)以上の発令に伴う避難実施状況】

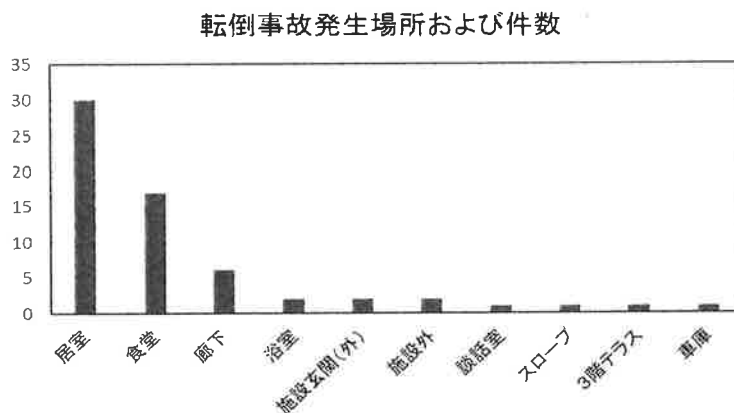
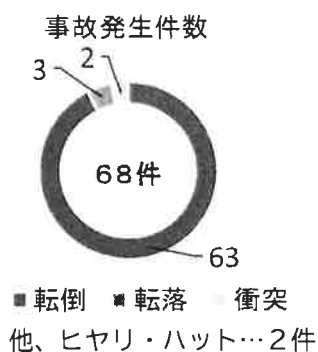
実施期間	避難場所	避難対象者
R7. 9. 12	2階食堂(垂直・水平避難)	1階入居者 2階201~205号室入居者

## 6. 事故防止

- ・ 事故発生件数は前年比65.9%増加した。

利用者の事故防止に対する意識付けにとどまらず、各事故の背景にある環境要因を分析し、特に職員としてどのような関わりを持つことで事故を防止できるかという視点を対策に盛り込んでいく必要があった。

事故発生件数 68件（内、病院受診などによる広島市への報告19件）



## 7. 苦情解決

- ・ 迅速な検証と分析により問題点を明確化し、具体的な改善策を実施した。報告書の回覧や園内掲示、口頭での情報共有により、一貫した対応に努めた。

【苦情発生件数 5件】

食事に関して 2件

- 異物混入 小鉢内に虫 1件、ご飯内に毛髪 1件  
⇒ 対応…対象者の小鉢やご飯は新しいものに取り替え、再度提供した。  
提供方法…食事開始前に配膳している小鉢の提供時間を遅らせる。  
身だしなみ…調理員はヘアキャップ内に髪をすべて収める。  
異物除去…厨房入室前に粘着ローラーで衣類の毛髪や埃を取る。

その他 3件

- 「人の悪口を言わないでほしい」との申し出 2件  
⇒ 職員の対応…他者を悪く言う発言を耳にした職員は、悪口に同調せず、その場で発言者に直接注意する。  
心のケア…悪口を言われていることを本人が知っている場合や、直接悪口を言われた利用者がある場合には、話を丁寧に聞き、不安や傷ついた気持ちに寄り添うなど精神的ケアに努める。
- 「指に唾をつけて新聞をめくらないでほしい」との申し出 1件  
⇒ 注意喚起…新聞マガジンラックに、指に唾をつけて新聞をめくらないよう注意文書を掲示。  
代替手段の提供…指サック（2サイズ）を常備し、ページをめくりやすくする。

## 8. 行事について

- ・ 活動性のある行事の開催により利用者の意欲と役割を引き出すことを目的として、入所者参加型の季節感のある料理やおやつ作りを実施した。また、話題の時事を取り入れたスタンプラリーや外出会を企画・提供し、楽しみや社会参加の機会の充実を図った。

### 【開催行事】

月	行 事 名	
4月	園内	お茶会、大阪・関西万博クイズラリー（スタンプラリー）、リクエストの日 ミックスジュースの日
	園外	お花見（園周辺散策）
5月	園内	菖蒲湯、プレートランチの日、母の日、ケーキの日 お好み焼きの日〈入所者参加型〉
	園外	ドライブツアー（宇品波止場公園 ～クイーン・エリザベス号を眺める～）
6月	園内	父の日、そうめんの日、ミックスジュースの日 手作り柏餅の日〈入所者参加型〉、
7月	園内	開園祝賀会、七夕そうめん、茅の輪くぐり（スタンプラリー） 土用の丑の日（一の丑、二の丑）、 手作りおやつの日（フルーツパンケーキ）〈入所者参加型〉、
8月	園内	縁日・納涼祭、ミックスジュースの日、うどんの日、喫茶
9月	園内	敬老会、アイスの日、秋分の日（おはぎ）、のぞみ幼稚園交流会
	園外	物故者追悼法要
10月	園内	運動会、十五夜、お茶会、ハロウィン 全国秋のお寺巡り～紅葉を見に行きましょう～（スタンプラリー） お好み焼きの日〈入所者参加型〉
	園外	畑地域美化活動
11月	園内	芋煮会、映写会、喫茶、リクエストの日（天ぷら）
	園外	広島城大菊花展観覧
12月	園内	クリスマス会、柚子湯、餅つき〈入所者参加型〉
1月	園内	互礼会、七福神巡り（スタンプラリー）、七草粥
	園外	初詣ドライブ（護国神社）
2月	園内	食事に関する行事（海鮮丼）、節分、バレンタインデー喫茶 手作りおやつの日（どらやき）〈入所者参加型〉
3月	園内	映写会、ひな祭り、ホワイトデー喫茶、春分の日（ぼたもち）

# ◆ 令和7年度事業報告書 ◆

## ◇◆目次◆◇

介護老人福祉施設	
目的・方針	
事業実施計画	
1. 円滑な運営に向けて	1
2. 職員の資質向上	
3. 利用者に関して	2
4. 事故について	3
5. 苦情処理	
6. 介護報酬	
7. 令和7年度の取り組み	4
短期入所生活介護	
目的・方針	
事業実施計画	
1. 円滑な運営に向けて	5
2. 職員の資質向上（特養共通）	
3. 利用者に関して（特養共通）	
4. 事故について	
5. 苦情処理	
6. 介護報酬	
7. 令和7年度の取り組み（特養共通）	

社会福祉法人 はばたきの里

特別養護老人ホーム 第二いこいの園  
第二いこいの園 短期入所生活介護事業所

〒733-0815 広島市西区己斐上五丁目 847-1

TEL (082) 271-6060

FAX (082) 271-7511

## 介護老人福祉施設：特別養護老人ホーム 第二いこいの園

### 目的・方針

利用者が要介護状態になった場合においても、その利用者が可能な限り施設においてその有する能力に応じて自立した日常生活を営むことが出来るよう必要な日常生活上の世話及び機能訓練を行う事により、社会的孤立感の解消及び心身の機能の維持並びに利用者の家族の身体的及び精神的負担の軽減を図ることを目的とした。

#### 1. 円滑な事業運営に向けて

- ・令和7年度入所待機者は男性41名、女性26名、合計67名（前年68名）となっている。
- ・利用者増加施策として、通常の入所申込に加え、介護施設紹介事業者と業務委託契約を締結。

#### 2. 職員の資質向上・業務効率の向上について

- ・各種会議を定期的で開催し、利用者の状態把握、処遇の統一、事故再発防止、安全管理、栄養管理の徹底に努めた。
- ・介護職員に対する処遇改善を図り、介護職員の職場定着とキャリアアップに努めた。

### 研修会への参加

#### (外部研修)

月 日	研修名
10月23日	広島市高齢者虐待防止研修（オンライン）（介護士1名）
2月1日	高齢者虐待防止研修（施設長、介護士1名）

#### (内部研修)

月 日	研修名
4月8日	BCP研修・訓練（施設長、介護職員、看護職員、管理栄養士、事務員、相談員）
5月13日	事故防止対策研修会（施設長、介護職員、看護職員、相談員）
5月13日	口腔衛生管理研修（介護職員、看護職員）
7月8日	BCP感染予防研修・訓練（施設長、介護職員、看護職員、管理栄養士、事務員、相談員）
10月14日	口腔衛生管理研修（介護職員、看護職員）
10月14日	事故防止対策研修会（施設長、介護職員、看護職員、相談員）
11月5日	BCP研修・訓練（施設長、介護職員、看護職員、管理栄養士、事務員、相談員）
11月11日	感染予防対策研修・訓練（施設長、介護職員、看護職員、相談員）
11月11日	高齢者虐待防止・身体拘束廃止研修（施設長、介護職員、看護職員、相談員）
12月9日	感染予防対策研修・訓練（施設長、介護職員、看護職員、相談員）
12月9日	BCP感染予防研修・訓練（施設長、介護職員、看護職員、管理栄養士、事務員、相談員）
2月10日	高齢者虐待防止・身体拘束廃止研修（施設長、介護職員、看護職員、相談員）

事故発生予防、虐待防止、身体拘束廃止、感染症予防・発生対応を年2回以上開催。

### 3. 利用者に関して

(利用状況)

月	日数	延日数	特養		空床短期		合計	令和7年度 利用率	令和6年度 利用率
			入所者数 月平均	利用 延日数	利用者数	利用 延日数	利用 延日数		
4月	30	1,500	40	1,219	0	0	1,219	81%	82%
5月	31	1,550	43	1,335	0	0	1,335	86%	81%
6月	30	1,500	42	1,269	0	0	1,269	85%	82%
7月	31	1,550	42	1,309	0	0	1,309	84%	82%
8月	31	1,550	42	1,313	0	0	1,313	85%	78%
9月	30	1,500	38	1,149	0	0	1,149	77%	75%
10月	31	1,550	41	1,294	0	0	1,294	83%	85%
11月	30	1,500	45	1,365	0	0	1,365	91%	86%
12月	31	1,550	45	1,397	0	0	1,397	90%	86%
1月	31	1,550	42	1,317	0	0	1,317	85%	79%
2月	28	1,400	42	1,197	0	3	1,200	86%	81%
3月	31	1,550	44	1,363	0	14	1,377	89%	82%
合計	365	18,250	506	15,527	0	17	15,544	85%	82%

入所者平均人数…42名（前年41名）、平均利用率…85%（前年82%）

平均年齢…84歳、平均在所日数…約2年6か月。

平均介護度（男性）3.2、（女性）4、（合計）3.9

(退所者)

退所者数は9名（前年17名）。退所の主な理由として多かったのは亡くなるケースで7名、そのうち施設で看取りを希望され亡くなられた方が2名となっている。その他、入院し医療的な対応が必要となり、そのまま退所に至った方が2名であった。

(入所者)

新規入所者数は11名（前年16名）。病院からの入所が5名と最も多く、次いで在宅2名・グループホームが2名、老健施設1名・軽費1名となっている。

月別入退所者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所	1	1	0	1	1	0	2	2	1	0	1	1	11
退所	0	0	1	0	1	0	1	0	2	1	2	1	9

(入院者)

入院者数は15名(前年21名)、入院総日数は585日(前年668日)、入院の原因として最も多かったのは、誤嚥性肺炎、血中酸素濃度低下、次いで尿路感染であった。その他入院の原因として、大腿骨頸部骨折、一過性脳虚血発作、インフルエンザ等があった。

#### 4. 事故について

- ・常に利用者の状態変化に注意し、必要があれば家族・医療機関に相談し必要な対策を取るよう努めた。
- ・広島市への事故報告件数は、7件(前年6件)。

主な事故内容

介護職員が付き添い歩行中、ご本人の足がもつれ転倒。ご利用の体を支えきれず腰の辺りを床で強打。右足付け根に痛みあり救急搬送。右大腿骨転子部骨折と診断、人工骨頭挿入術施行しリハビリ実施。リハビリを終え約2ヶ月後退院。入院前同様の歩行レベルまで回復。

#### 5. 苦情処理 ( 2件 )

主な苦情内容

面会時、長女より「今日は口の中や歯がとても汚れている。肺炎になることがあるので、きれいにしてほしい」と訴えあり。主任介護士対応。

昼食後の口腔ケアが十分にできていなかった。介護士会議にて口腔ケアのやり方を再確認、周知徹底した。

#### 6. 介護報酬

令和7年度の目標利用率87%には3%ほど届かなかったが、前年度より増収となり収支差額もプラスとなっている。要因としては、入所者数の増加や退所者数の減少(令和6年度の約1/2)。入院者数、入院日数の減少があげられる。

#### 7. 令和7年度 取り組み

- ・入所者増加への取組として、定員50名に対し最低入所者数48名を目標として定めた。目標を設定し法人全体で取り組むことで、一時47名まで回復した。その後の退所により人数を維持することはできなかったが、入所者数の底上げに繋がった。
- ・生産性向上、新規加算取得のため、現行の介護記録ソフトでは対応できず、他社の記録ソフトに切り替えを検討。展示会への参加や直接業者と打ち合わせを何度も行い、令和8年度中に切り替え予定。

短期入所生活介護：第二いこいの園 短期入所生活介護事業所

目的・方針

利用者が要介護状態又は要支援状態になった場合においても、その利用者が可能な限り居宅においてその有する能力に応じて自立した日常生活を営むことが出来るよう必要な日常生活上の世話及び機能訓練を行う事により、社会的孤立感の解消及び心身の機能の維持並びに利用者の家族の身体的及び精神的負担の軽減を図ることを目的とする。

1. 円滑な運営に向けて

事業の実施に向けて第二いこいの園 短期入所生活介護事業が地域においてさらに定着すること及び地域福祉の向上を目的とする。

利用状況

月	日数	延日数	利用者数	令和7年度		令和6年度	
				利用延日数	利用率	利用延日数	利用率
4月	30	150	8	96	64%	66	44%
5月	31	155	7	83	54%	48	31%
6月	30	150	6	60	40%	18	12%
7月	31	155	5	43	28%	41	26%
8月	31	155	3	44	28%	50	32%
9月	30	150	7	69	46%	50	33%
10月	31	155	8	97	63%	55	35%
11月	30	150	9	94	63%	76	51%
12月	31	155	6	61	39%	59	38%
1月	31	155	8	77	50%	67	43%
2月	28	140	9	91	65%	27	19%
3月	31	155	7	107	69%	37	24%
合計	365	1825	83	922	51%	594	32%

介護報酬については、利用率が改善傾向にあり前年度・当初予算と比較すると増収となったが、収支差額はマイナスとなっている。

2. 職員の資質向上（特別養護老人ホーム第二いこいの園事業報告書参照）
3. 利用者に関して（特別養護老人ホーム第二いこいの園事業報告書参照）
4. 事故について 主な事故内容（ 広島市事故報告…0件 ）
5. 苦情処理 苦情内容（ 2件）
6. 介護報酬 介護報酬に関して、決算書参照。
7. 令和7年度の取り組み（特別養護老人ホーム第二いこいの園事業報告書参照）



# ◆ 令和7年度事業報告書 ◆

## ◇◆ 目次 ◆◇

### 介護老人福祉施設

#### 目的・方針

#### 事業実施計画

- |    |            |   |
|----|------------|---|
| 1. | 円滑な運営に向けて  | 1 |
| 2. | 職員の資質向上    |   |
| 3. | 利用者に関して    | 2 |
| 4. | 事故について     |   |
| 5. | 苦情処理       | 3 |
| 6. | 介護報酬       |   |
| 7. | 令和7年度の取り組み |   |

社会福祉法人 はばたきの里

特別養護老人ホーム 第三いこいの園

〒733-0815 広島市西区己斐上六丁目 939-1

TEL (082) 275-0066

FAX (082) 275-0093

## 介護老人福祉施設：特別養護老人ホーム 第三いこいの園

### 目的・方針

利用者が要介護状態になった場合においても、その利用者が可能な限り施設においてその有する能力に応じて自立した日常生活を営むことが出来るよう必要な日常生活上の世話及び機能訓練を行う事により、社会的孤立感の解消及び心身の機能の維持並びに利用者の家族の身体的及び精神的負担の軽減を図ることを目的とした。

#### 1. 円滑な運営に向けて

- ・ 令和7年度入所待機者は男性41名、女性43名、合計84名（前年78名）となっている。
- ・ 利用者増加施策として、通常の入所申込に加え、介護施設紹介事業者3社と業務委託契約を締結。

#### 2. 職員の資質向上

- ・ 年間の研修計画を決め、処遇の統一・職員の意識の向上に努めた。
- ・ 感染症対策委員会や各種会議にて、感染症についての予防と対応について周知徹底を行った。また、不明な点については行政に確認し対応した。
- ・ 介護職員に対する処遇改善を図り、介護職員の職場定着とキャリアアップに努めた。

### 研修会への参加

#### (外部研修)

- ・ 医療行為（喀痰吸引等）を実施できる介護職員が減少しており、自施設にて介護職員が医療行為研修を修了できるよう看護師が受講した。
- ・ 利用者の臥床時のポジショニングを学び、安楽な姿勢で休むことで施設生活が過ごしやすくなり、二次障害予防にも繋げる支援に努めた。
- ・ 新人職員研修、高齢者虐待防止研修（WEB）などにも参加した。

#### (内部研修)

- ・ 身体拘束廃止、高齢者虐待防止、事故発生予防、感染症発生予防、BCP研修・訓練等の法定研修を主に開催し、日頃より意識し取り組めるよう周知した。
- ・ 食事中などに窒息を起こすケースもあったため、緊急時の対応について看護師を主とし研修会を開催し、発生予防や発生時の対応を学んだ。

### 3. 利用者に関して

(利用状況)

	令和7年度	令和6年度
利用可能日数	10,950日	10,950日
利用実日数	9,926日	9,595日
入所者数	5名	5名
退所者数	3名	6名
入院日数	230日	304日
平均介護度	3.90	3.80
利用率(目標)	90.6%(95.0%)	87.6%(95.0%)

令和7年度の平均入所者数26.1名と令和6年度と比べほぼ横ばい。年間利用率は90.6%と前年度より3%上がっているが、当初目標には至らず。

(退所者)

令和7年度の退所者は3名であり、前年の半数となっている。退所理由として、心不全、癌末期、誤嚥性肺炎で死去されている。

(入所者)

入所者5名(前年5名)であり、医療機関2名、在宅3名より受け入れを行った。

(入院者)

令和7年度中の入院者は延べ10名(前年度14名)であり、人数や入院日数は前年度より減少している。入院原因として、尿路感染症や胆管炎・胆嚢炎、骨折等であり、尿路感染症や骨折など予防出来る事象については、対応策を十分に検討・実施し、入院者の減少に努める必要あり。

### 4. 事故について

常に利用者の状態変化に注意し、必要があれば家族・医療機関に相談し適切な対策を取るよう努めた。

○広島市事故報告…9件(前年5件)

(主な事故内容)

広島市への事故報告が前年より増えている。内容として、転倒、転落事故が7件(骨折4件)、内出血、誤嚥性肺炎となっている。転倒に関しては、車椅子からの転落事故が5件であった。ご自身で動かれる方であり、見守り等の対応が不十分で発生している。

## 5. 苦情処理

○苦情内容… 3件（前年2件）

（主な苦情内容）

3月利用者の左肩から胸部全体にかけて広範囲に内出血が出来ていたのを発見。ご家族へ報告し謝罪する。病院受診し結果を報告するも虐待を疑われご理解頂けず。

→ご家族に来園して頂き、ご本人の居室にて内出血の状況を確認して頂く。別の医療機関での検査を希望されたため、改めて病院受診し診断結果を報告する。また、ご本人、ご家族へ負担や迷惑を掛けた事、内出血に至る経緯について特定出来ない事についても併せて謝罪する。ご家族より、今後同じような事が起きないように注意してもらいたいとの申し出あり。

## 6. 介護報酬

令和7年度の利用率は前年比約3%増となり、収入に関しても約480万円の増収となっているが、収支差額はマイナスである。利用率は上がっているが、目標の95%には約5%と達成できず。

## 7. 令和7年度の取り組み

- ・30床（満床）を目標に取り組み、29床まで入所者を増やすことが出来たが、入院や退所で目標数値を達成できなかった。
- ・2階フロア部分を特養増床枠として、広島市や設計事務所と協議を行った。結果、増床工事を施工した際、人件費・資材高騰等の影響もあり、年間収入以上の費用が掛かる見込みであったため、法人内で十分に協議する必要がある。
- ・2階フロアを福祉避難所として登録し、災害時の受け入れ先とした。また、近隣の医療機関とも災害時の対応についての協定を締結させるため協議を重ねた。令和8年度に締結予定。
- ・生産性向上、新規加算取得のため、現行の介護記録ソフトでは対応できず、他社の記録ソフトに切り替えを検討。展示会への参加や直接業者と打ち合わせを何度も行い、令和8年度中に切り替え予定。

# ◆ 令和7年度事業報告書 ◆

## ◇◆ 目次 ◆◇

事業目的  
運営状況

1. 介護報酬と利用者数	1
2. 研修について	2
3. 苦情処理	3
4. 取り組みと今後の課題	3

社会福祉法人 はばたきの里

はばたきの里 居宅介護支援事業所

〒733-0815 広島市西区己斐上六丁目939-1

TEL (082) 507-5866 ・FAX (082) 275-0093

## はばたきの里 居宅介護支援事業所

### 目的・方針

社会福祉法人はばたきの里が開設するはばたきの里居宅介護支援事業所が行う指定居宅介護支援事業所は、居宅において要支援状態、又は要介護状態にある高齢者に対し適切な居宅介護支援事業を提供する事を目的とする。

### 運営状況

#### 1. 介護報酬と利用者数

##### 要介護

令和7年度	合計	4,631,392円	延べ人数	366人
令和6年度	合計	4,496,138円	延べ人数	362人
令和5年度	合計	7,662,205円	延べ人数	619人

##### 要支援

令和7年度	合計	791,355円	延べ人数	193人
令和6年度	合計	490,183円	延べ人数	121人
令和5年度	合計	678,874円	延べ人数	174人

##### 要介護+要支援

令和7年度	合計	5,422,747円	延べ人数	559人	ケアマネ 1.7名 (1.5名)
令和6年度	合計	4,986,321円	延べ人数	483人	ケアマネ 1.1名
令和5年度	合計	8,341,079円	延べ人数	793人	ケアマネ 1.8名

当事業所の令和7年度の収支差額は前年度の108%となっている。

令和7年度はケアマネジャー1.7名体制で業務を行ってきた。パート職員の勤務は0.7名の予定であったが、実際の稼働は0.5名分で期待した業務量をこなすことができいなめ、収益は伸び悩んでいる。

## 2. 研修について

令和 7 年度に参加した研修

- ・ケアマネジメント勉強会
  - 事例発表会
  - 認定調査員研修
  - 福祉用具の選び方
  - 障害福祉サービスの仕組みと使い方
  - アセスメントの本質と伝わるケアプランの書き方
  - 新人用 ケアマネジメント基礎研修
  - 高齢者に多い精神疾患
  
- ・己斐包括支援センター
  - 己斐・己斐上圏域の現状と HUG 体験
  - 事例検討会
  - 医療と介護の連携会議 多職種で支える心不全ケア
  - 「ひきこもり」を考える
  - 人生会議講座
  
- ・市域居宅介護支援事業者協議会
  - 事例発表会
  
- ・他法人との事例検討会
  - おれんじ居宅介護支援事業所
  - 土谷居宅介護支援事業所西広島
  - ウィズ居宅介護支援事業所
  - 居宅介護支援事業所スマイルケア
  
- ・内部研修
  - ケアマネ勉強会など外部研修の振り返り
  - BCP について

### 3. 苦情処理について

令和7年度に苦情はありませんでした。

当事業所への苦情について (0件)	
内 容	
対 応	

### 4. 取り組みと今後の課題

#### <令和7年度の取り組み>

- ・ 令和7年1月より 1月よりパート職員が入職したが、ケアマネジャー未経験者であったため、研修には積極的に参加してもらい成長を促した。
- ・ 令和8年6月より処遇改善加算がつくことになり、その条件となる連携の準備を進めた。業務の効率化を図るために、ICTを利用すること考えているが、令和8年度のソフトの変更を待つことになる。
- ・ BCP計画の策定を行い、適時更新をした。
- ・ 他事業所と災害時連携のための準備

#### <今後の課題>

- ・ 職員の補充を行い特定事業所加算の取得を行い、研修の参加を増やしていきたい。
- ・ ICTを利用し、業務の効率化を図ることで担当件数を増やすことを目標とする。
- ・ BCP計画の策定を行い、適時更新をしていく。
- ・ ケアプランデータ連携を進め、効率よく記録等が行えるよう整備する。

# ◆ 令和7年度事業報告書 ◆

## ◇◆ 目次 ◆◇

目的・方針

運営状況、

1. 包括的支援事業	1
2. 地域介護予防拠点整備促進事業	2
3. 高齢者地域支え合い事業	2
4. 非常災害対策	3
5. 苦情、事故処理	3
6. 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント事業	3
7. 令和7年度の取り組み	4

社会福祉法人 はばたきの里

広島市己斐・己斐上地域包括支援センター

〒733-0812 広島市西区己斐本町二丁目 7-13

TEL (082)275-0087

FAX (082)275-0070

## 広島市己斐・己斐上地域包括支援センター

### 目的・方針

高齢者に関する保健・医療・福祉に関する総合相談、介護予防ケアマネジメント、地域ケア関係機関等の連携促進を担う地域の中核機関として、地域包括支援センターを設置。地域包括支援センターを中心として地域ケアのネットワークと地域密着型サービスの連携を図りつつ、高齢者の住み慣れた地域での社会生活を支援していく。

### 運営状況、

各事業の担当職員が年度当初に目標設定を行い、PDCA サイクルを活用し、目標を数値化し、事業運営を行った。研修会等の開催をする際は、「感染症対策」を講じ、感染症発生前の会場参加型に変更し開催をした。介護予防、生活機能改善を目的とした、センター主催の介護予防教室の開催は、年度当初に計画をしていた回数を実施することが出来た。

認知症の正しい知識の習得と理解促進を目的とした、認知症サポーター養成講座を圏域内のすべての小、中学校、障害事業所で開催した。日頃からの業務連携をより効果的に行うことができることを目的とした多職種連携会議を開催。企画、運営にあたっては、一回完結型ではなく、認知症、ACPをテーマに、3か年計画で実施した。

### 1. 包括的支援事業

#### 1-1 総合相談、権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメント支援業務 相談別対応件数(令和7年度実績)

	家庭訪問	電話相談	来所相談
R7年度	591	948	466
R6年度	566	950	346

#### 1-2 相談内容(令和7年度実績)

	介護予防	総合相談	権利擁護	包括的・継続的
R7年度	48	1085	19	422
R6年度	37	1031	19	367

親族、民生委員、友人等から「最近、姿を見かけない、連絡が取れない」などの安否相談が増えており、その都度、警察、行政、地域関係機関などと連携し、対応した。

金銭、障害、高齢など、複合的な課題を抱える世帯の相談に対して、行政、関係機関で処遇検討会議を開催。世帯の課題を共有、課題をチームで分担して解決に結びつけている。

センター職員が出勤時に総合相談の経過記録を確認、担当者・対応者が不在であっても、相談対応が止まらないようにした。

## 2. 地域介護予防拠点整備促進事業

令和7年度新規立ち上げ拠点1か所 令和7年3月末現在 圏域内 21拠点  
(己斐上1か所)

高齢者が歩いて通える場所への「地域に開かれた住民運営の介護予防拠点」の整備を促進することにより、誰もが介護予防に取り組むことができる地域づくりを進め、介護予防活動の地域での普及・定着を図った。

各拠点の状況確認とモニタリング実施するとともに、安心、安全に地域で日々過ごしてもらうため、熱中症、消費者被害などの情報提供、認知症サポーター養成講座を開催した。近隣の100歳体操に参加をされ、「消費者被害対策講座」を受講された方より「自分の住んでいる地域でも講座を開催してほしい、サロンの会員を増やしたい」というつぶやきをもとに、講座の開催と同時進行で、地域の実情、集う場の重要性を参加者と共有。介護予防拠点への立ち上げに結びつけた。

## 3. 高齢者地域支え合い事業

令和7年度末現在 己斐東小学校区19名(149名) 己斐小学校区12名(157名) 己斐上小学校区0名(157名)

己斐上小学校区については、既存の地域活動による見守りを基本とし、包括支援センターが地区サロンに訪問、参加者、世話人より日ごろの活動の悩み、気になる高齢者の情報を収集する方式で地域支え合い事業を実施することとなった。

圏域内の防犯、防災、防火の意識を高めることを目的とした多世代を対象とした研修会を開催した。

認知症になっても自身の「強み」を生かして、地域で活躍ができる場づくり、認知症カフェの立ち上げ、多世代交流を目的とした、「親子で遊ぼう、あそびのひろば」を地区社協、行政、包括共同で開催した。

見守り運営会議において、「ICTを活用した見守り」というつぶやきをもとに、学区社会福祉協議会と共同で地域住民、協力員・登録者の交流会を兼ねた「スマホ講座」した。また、「認知症が疑われる住民に対して、認知症の正しい知識の周知と支援」の相談に対して、「認知症サポーター養成講座の開催、参加」を提案、実施した。

高齢者を中心とした方々に対しどのような手助けが必要か、自分が可能な手助けとして「安否確認の声掛け」という意識調査を基に、「お互いが見守り、支え合うこと」、「地域の活動参加を促すこと」、「地域から孤立するかもしれないという不安感の解消」と、学区社協と協働しながら、「魅力ある地域づくり」を進めていく

#### 4.非常災害対策

職員の防災・危機管理能力の向上を目的として、災害用伝言ダイヤルを活用した職員安否確認連絡訓練ならびに、圏域内のケアマネジャー、サービス事業所の職員を対象に、行政からの当センター圏域の災害危険区域の説明ならびに、初期の避難所運営に関わる問題を理解することを目的とした避難所運営ゲーム(HUG)を実施した。

年度末に BCP 策定委員会を開催。策定している業務持続計画の見直し、次年度の研修計画を検討した。

#### 5.苦情、事故処理

R7 年度事故報告 4 件(R6 年度 5 件)、苦情対応はなし。

事故内容(一部)

内容	カバンを背負い、自身の背中とリアボックスの間に挟んだ状態で原付バイクにて事務所に帰社した際、カバンの留め具が破損し、カバンが落下したことに気づかず事務所に帰社してしまった。(警察に紛失届を提出、その後、交番にカバンの届け出あり)
対応	カバンの中身を必要最低限度とし、原付バイク移動の際、カバンはリアボックスに入れる。
内容	センターが直接担当していた間、利用者が返却していた福祉用具を借り続けていると勘違いし、請求業務を継続していた。
対応	定期的なモニタリングの際、予定していたサービスと実際利用しているサービスを確認する。

車両の破損事故は、定期的な注意喚起により、減少傾向にある。(令和 6 年度 3 件→令和 7 年度 1 件)その他の報告としては、有給休暇の付与日数の間違いがあった。

利用者のサービス変更、追加などがあった際には、誤請求をおこさないよう、管理を行う。就労条件を確認し、誤った処理をしないよう注意を行う。

#### 6. 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント事業

介護報酬に関しては、令和 7 年度決算(資金収支計算書)を参照

要介護認定調査件数は前年度とほぼ変わらず。(前年度 90 件、令和 7 年度 81 件)

対象者の身体状況の悪化に伴う同居家族負担が増したため、有効期間を待たず、認定の見直しの手続きをするケースも多かった。認定区分が変更した際には、速やかに居宅介護支援事業所に引継ぎを行い、支援が停滞しないようにした。

令和 6 年度と比較し、介護予防支援、ケアマネジメント収入は微増。理由としては、年度初めに、職員 1 名病欠期間(約 2 か月)があり、センター担当件数を委託、担当件数の見直し等を行い、最低限の減収に留めるようにした。病欠明け以降は、センター直接担当件数を増やし、増収転換させることができた。一定期間サービスを利用し、生活改善がみられる高齢者については、サービスを終了し、地域活動への参加に移行した。地域介護予防拠点等で生活機能評価を実施し、生活機能評価が気になる高齢者、また地域関係者からの相談より、認定申請の支援、サービス調整を行った。引き続き、住み慣れた地域で安心して過ごせるよう、地域で開催

される地域活動への参加ができるよう支援を続けていく。

## 7. 令和7年度の取り組み

○広島市西区医師会、西区地域支えあい課、医療機関、西区6包括支援センターが共同で広島ドラゴンフライの協力のもと、認知症の理解を深める集い、認知症の当事者、家族、支援者による広島ドラゴンフライズの公式戦観戦を企画、実施した。

○認知症のケアについて、日頃の困りごとや対応方法、家族支援についての課題を共有し、解決に向けた知恵や工夫を共有する場として、圏域内の事業所をめぐる「移動式認知症カフェ」を開催した。

○高齢者に患者が多く、高齢社会の進展で爆発的に増加する心不全パンデミックに対応できる様に多職種連携が必要であるとの考えのもと、西区6包括支援センターが協同で多職種連携会議を開催。当地域包括支援センターがメイン会場を担当。西区6圏域の会場をオンラインでつなぎ、6圏域で約300名の医療、介護の専門職が参加をした。

○地域の住民が「フレイルサポーター」となり、一人一人がフレイル予防に取り組むことで、健康で活力ある地域社会を目指すことを目的に令和5年より始まった西区フレイルチェック活動を己斐上小学校区で実施。令和7年12月3日に第一回のフレイルサポーター養成講座を開催し、13名のサポーターが誕生。13名のサポーターが主導となり、令和8年3月6日に「第一回フレイルチェック会」を開催した。

